

オビドス独特の道を散策すると、歩みを進める毎に過去の遺跡に出くわす。旧イラム街の閉ざされた片隅や庭、ゴシック様式の存在、その後も町はルネッサンスそしてバロックを経ながら何世紀にも亘り再建されてきた。

この別の時代の物質的遺産は、今日の文化事業の活発さと共に、オビドスを観光アトラクション化、「ポルトガル七不思議」の一つにも選定された。

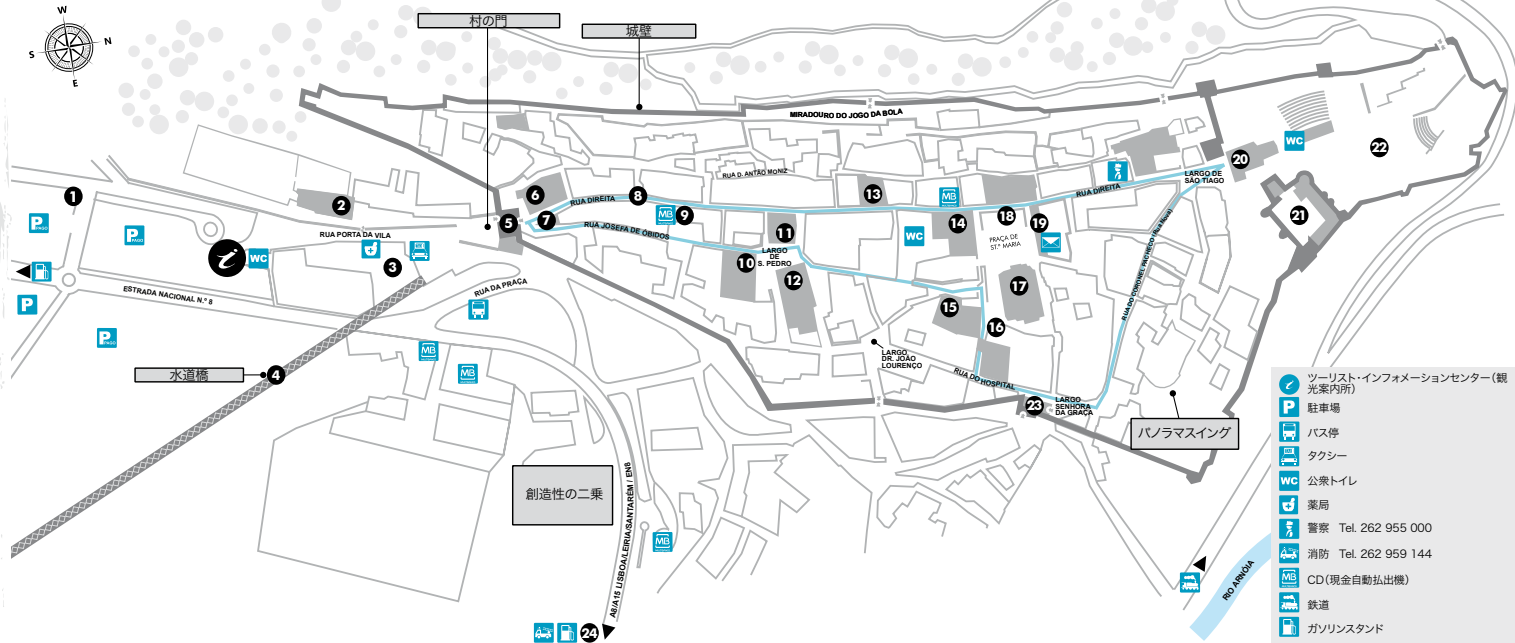
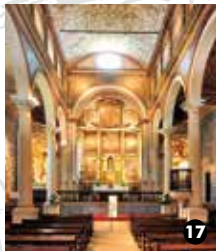
オビドス、生ける遺跡！



ÓBIDOS  
CITY OF LITERATURE

Designated  
UNESCO Creative City  
in 2015





1 クルゼイロ・ダ・メモリア — 15世紀にアフォンソ・エンリケス(初代ポルトガル国王)がムーア人に勝利したことを記念して建設。

2 聖ジョアン・バティスタ(サン・ジョアン・バティスタ)教会(旧聖ヴィセンテ礼拝堂) — 1309年に聖イザベル王妃が創設。16世紀に拡張され、現在はオビドス教区美術館。

3 芸術と手紙の書店

4 水道橋 — カタリーナ王妃の資金援助により16世紀に建設。

5 町の門(ボルタ・ダ・ヴィラ) — 町への主要門で、1380年頃に建設。聖ビエタデに捧げられた祈禱室がある。

6 町立公会堂カーザ・ダ・ムジカ

7 カモンイス記念碑 — ポルトガルの詩人カモンイス(16世紀)を称える記念碑で、建築家ラウル・リノによるプロジェクト。1932年完成。

8 ルア・ティライタ — 13-14世紀に決められた町の幹線道路。町の門と城とを結ぶ。

9 オーガニック市場 書店

10 町政庁舎(タウンホール)

11 聖マルティエーニョ(サン・マルティエーニョ)礼拝堂 — 楕が収められているゴシック様式の礼拝堂(1331年)。

12 聖ペドロ(サン・ペドロ)教会 — 13-14世紀に建設。1755年のリスボン大地震後に再建。祭壇背後の飾り壁には金色に輝く浮き彫り(1690-1705年)が施されている。

13 ノヴァオジヴァギャラリー — 現代アートを重視したスペース。

14 町立美術館/聖マリア(サンタ・マリア)広場邸(18世紀) — 貴重な宗教芸術コレクションを収蔵。画家エドゥアルド・マルタの住まいであった。

15 慈善教会 — 16世紀にレオノール王妃により創設。重要な芸術的遺産を所有する。

16 アベリオ・デ・マトス・イ・シルヴァ美術館 — 町政庁舎(タウンホール)、町の裁判所、刑務所であったが、1970年に町立美術館となる。後に、芸術家アベリオ・デ・マトス・イ・シルヴァの作品スペースとしてアレンジされる。

17 聖マリア(サンタ・マリア)教会(母教会) — 12世紀に建てられ、16世紀に再建される。ルネッサンスの作品であるジョアン・デ・ノローニャの墓(1525年)、ジョゼファ・ア・オビドスによる聖カタリーナの祭壇画(1661年)、バロック様式のアズレージョ(1696年)が見所。

18 ペロウリーニョ(晒し柱) — 1513年に建設。町の自治のシンボルである。

19 ポルチコ(屋根付き・吹放ちの玄関先柱廊) — 旧市場。

20 サンティアゴ教会/書店 — 1186年に建てられ、1755年の地震後、再建。

21 城 — 王家そして領主の邸宅であった。1950年に歴史的ポウザーダ第一号となる。

22 城内(城の囲い) — 旧練兵場。

23 聖グラッサ(ノッサ・セニョーラ・ダ・グラッサ)の門 — かつての谷の門(11-13世紀)。浮彫りの施された石の祭壇(1722年)がある。

24 石のイエス(セニョール・ジェズース・ダ・ベドラ)教会堂 — ポルトガルにおける主要なバロック建造物の一つ。旧キリスト教の石十字を崇める。